

スナップエンドウごま症の耕種的防除法

週2回収穫，かん水開始点pF2.1でのかん水によりごま症の発生が軽減され，商品収量が増加

背景・目的

- ・ごま症による商品果率低下が問題であり，主要因がうどんこ病，褐紋病と整理され，うどんこ病対策は確立済
- ・褐紋病によるごま症は，依然として産地で発生しているため，耕種的防除による対策技術が必要

成果の内容

- ・収穫間隔を週1回から週2回に短くすることで，開花から収穫までの期間が短縮しごま症の発生が軽減
- ・かん水開始点pF2.1（pF2.2を超えない）でかん水することで，褐紋病の進展・株の枯れ上がりが遅れ，ごま症の発生は減少し，商品収量が増加

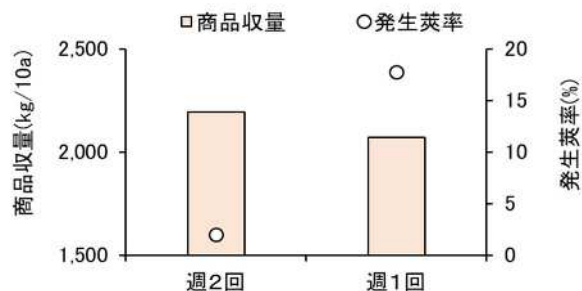


図1 収穫間隔とごま症発生率及び商品収量 (R3)

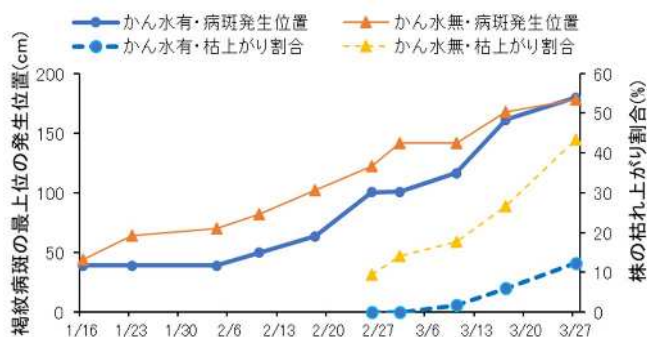


図2 かん水の有無と褐紋病斑の高さ及び株の枯れ上がり割合の推移

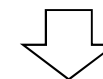
表1 かん水とごま症発生率，着莢数，商品収量

年度	区名	ごま症発生率 (%)	1節当たり着莢数 (莢/節)	商品収量 (kg/10a)	
R3	かん水有	0.1	1.10	2,306	
	かん水無	0.6	1.06	2,207	
		t検定	**	(+)	**
R4	かん水有	32.1	1.25	1,543	
	かん水無	48.8	1.15	1,419	
		t検定	**	*	*

注1) 播種: 令和3年度 令和3年10月1日, 令和4年度 令和4年10月3日
 収穫期間: 両年とも当年11月~翌年3月末
 2) 畝幅: 160cm, m間枝数: 令和3年度16.7本/m, 令和4年度13.3本/m
 3) かん水方法: 点滴かん水(かん水開始点pF2.1で実施)
 4) 薬剤防除: 令和3年度は殺菌剤を約10日間隔でローテーション散布
 令和4年度は1月以降, 殺菌剤を未使用
 5) 分散分析により, **は1%, *は5%, (+)は10%水準で有意差あり

期待される効果

○ごま症の発生率が軽減



○商品収量が増加
スナップエンドウの安定生産

○普及対象・範囲
スナップエンドウ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
熊毛支場園芸研究室